

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

ロータリーの心で
友情を深めよう

高田ロータリークラブ
今年のスローガン

勇気と希望をもって、
煌めくロータリーを



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度

国際ロータリー会長 ゴードンR. マッキナリー

第2560地区ガバナー 米山 忠俊

高田ロータリークラブ会長 山田守

幹事 吉田 巧

広報・会報・雑誌委員会：
細野仁・山本 陽・大島 誠・林 泰成

第6回例会 8月25日(金)

No.6

会長挨拶 ●山田 守



先週に引き続き相撲の話です。新潟県出身力士でただ一人横綱になった人がいます。西蒲原出身の羽黒山政司です。昭和9年1月初土俵、3年4か月後に新入幕で幕内優勝7回です。立浪部屋同門では大横綱双葉山がいました。双葉山のおかげで強くなったという人もいます。新潟弁がひどくて通訳がいるほどで、通訳についたのが糸魚川青海出身の黒姫山でした。双葉山が引退すると時津風部屋を継ぎ、羽黒山は立浪部屋を継ぎます。

先般黒姫山の孫（長男の息子）の話をしましたが、この春もう一人の孫（長女の息子）も時津風部屋に入門しました。藤原海斗15歳、身長183cm151キロです。

現在力士は700人弱在籍していますが、幕内42人十両28人が関取です。十両に昇格すると給料が月額110万円になります。



出席報告

出席率 97.92%

臨時総会

8月25日(金)規定となる総会の成立を確認後、山田会長が議長となり臨時総会を開催しました。「高田クラブの定款・細則の改定」及び「2022-2023年度決算報告」について満場拍手にて承認されました。

メイクアップ

高坂光一君 (8/20 国際奉仕フォーラム)

幹事報告

配布物：週報No.4.5、2022-23年度決算報告書、ポケット名簿
 回覧物：2022-23年度ガバナー月信最終号、米山梅吉記念館館報及び賛助会入会のお願い
 報告：9/1の職業訪問（移動例会）について



上越市立歴史博物館 統括学芸員 花岡公貴様

直江津の LNG 基地は、ガスパイプラインを使って東京へ天然ガスを送り出しています。どうして上越から東京へガスを送っているのでしょうか。それには、この上越の「頸城油田」の歴史が深くかかわっています。

石油が草生水と呼ばれて、灯火として活用されるようになるのは江戸時代のはじめごろのことのようです。草生水は、現在の板倉区と清里区の境付近で「坪」と呼ばれる浅いくぼみから自然にしみ出して、高田城下へも流通していました。

江戸時代もおわりに差し掛かろうとしていた寛政6年（1794）、地滑りによりこの大切な「坪」が埋まってしまう、人々は試しに「坪」のあった場所に井戸を掘ったところ、井戸の底に草生水が湧くようになったのです。これを見た人々はそこら中に盛んに井戸を掘るようになり、草生水井戸は爆発的に増え、地域独自の巧みな井戸掘り技術が発達して深い井戸は 200m にも達するようになりますのです。

明治 10 年ごろの玄藤寺油田には 500 本の井戸が掘られ、2000 人の鉱夫が働いていたと言います。政府が認める日本一の油田として一時は知られるようになりました。手掘り井戸の技術は広がっていき、隣接する牧・櫛池油田や名立区の瀬戸・飛山油田、そして郷津油田などが開発されていくのです。

戦後には、帝国石油が頸城区や吉川区でガス田を開発、続けて大潟区を中心に頸城石油・ガス田を開発します。このガスを送るためのパイプラインが延伸されて、現在の東京ガスパイプラインへと発展していきました。

歴史博物館では、草生水からガスパイプラインへと歴史がつながっていく様子を展覧会としてご覧いただけます。会期は 10 月 29 日（日）までです。

